平成25年度保健福祉部業務研究等報告会

応急仮設(プレハブ)住宅入居者健康調査の分析結果について

健康推進課 調整班
橋本　朱里，小野寺　保
庄子　聡子，高田　　仁

■ 平成24年度の健康調査の概要と対象数

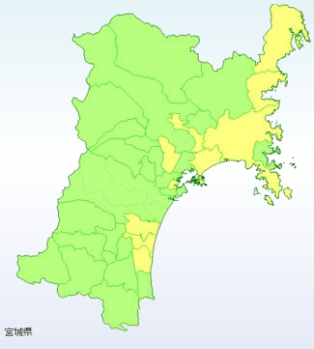
応急仮設(プレハブ)住宅を管理する
県内10市町の入居者

- ●配布：市町の支援員等による戸別訪問
- ●期間：平成24年度(平成24年9月～12月)
- ●回収：戸別訪問または郵送
- ●内容：個人属性(性別・年齢・職業等)
  健康状況(身体・心理・活動・社会性等)

→ 13項目の質問に回答

宮城県

■ 平成24年度の健康調査の概要と対象数



配布世帯数
15,979世帯
↓
回収率
58.6%
回収世帯数
9,366世帯
有効回答人数
21,450人

震災後の
広範囲大規模調査

■ 健康調査の目的と活用

目　的

- ● 要フォロー者の抽出（体調不良・K6悪い） ➡ 各市町への情報提供（仮設住宅訪問）
- ● 施策展開の基礎資料（県全体の単純集計） ➡ 各事業への活用・反映

被災者健康支援会議(委員からの意見)

- ・単純集計では不十分
- ・クロス集計を行ってみては
- ・仮説を立てて分析してみては

■ 仮説

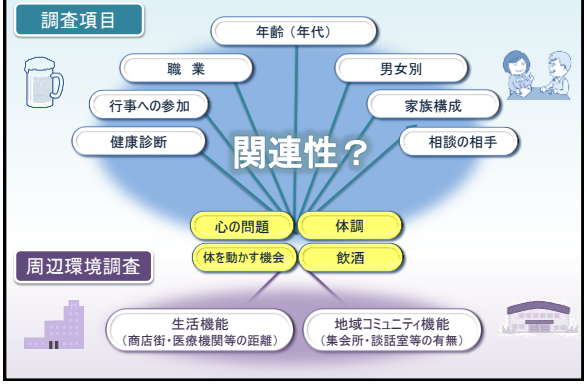
1 健康状態には，被災者の個人要因やソーシャルサポートなどの関与が大きく関連している。

➡ 調査項目「心の問題」等と，「相談者の有無」等との関係を分析。

2 仮設住宅の立地条件・周辺環境等が，健康状態に関連している。

➡ 仮設住宅と「公共施設や商店街」等の距離関係を分析。

■ 調査項目間の相関性



■ 単純集計の課題（例）

調査項目「職業」
会社員 vs 農業

調査項目「体調」
体調が悪い

会社員：5,000人
農業者：　100人

会社員：1,000人
農業者：　　50人

単純に集計すれば・・・

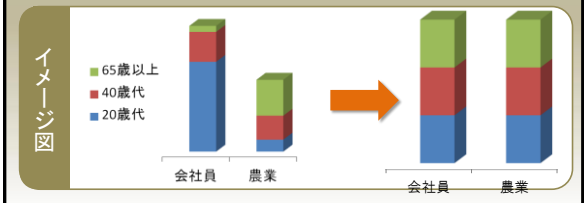
会社員　1,000人÷5,000人＝0.2　→　20%
農業者　　50人÷　100人＝0.5　→　50%

~~農業の体調が悪い~~

農業者は，高齢者が多いので体調が悪いのは当然だ!

個人要因等による影響が大きい（年齢分布等）

■ 人数等の調整



人数や年齢構成の偏りを調整する

＋　さらに他の質問項目の調整

多変量解析

特殊な技術と専門的な知識が必要

■ 分析方法

心の問題
K6が13点以上の人
K6：精神的な問題の程度を表す指標（回答を点数化）

体　調
「体調はいかがですか」の設問に「あまり良くない」及び「とても悪い」と回答した人

体を動かす機会
「震災前に比べて，機会はどうなったか」の設問に「とても少なくなった」及び「少なくなった」と回答した人

飲　酒
「朝または昼から飲酒することがある」と回答した人

各調査項目
それぞれの基準に対して

統計ソフト：MLwin(2.28)使用

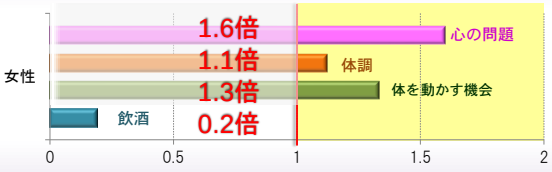
オッズ比

何倍そう答えた人が多いか，少ないか

■ 結果 1

性 別

男性を基準（＝1）にした場合の女性のオッズ比



飲酒以外，女性は男性よりリスクが高い。

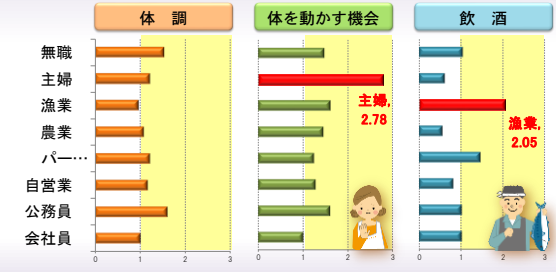
■ 結果 2

職 業　会社員を基準（＝1）にした場合の職業のオッズ比

K6は，無職・パート・自営業の方のリスクが高い。

■ 結果 3

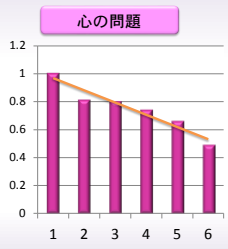
職 業

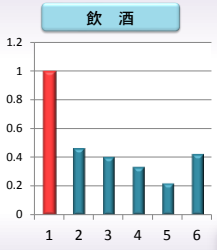


体を動かす機会で主婦，飲酒では漁業のリスクが高い

■ 結果４

家族構成　世帯人数1人を基準（＝1）にした場合のオッズ比



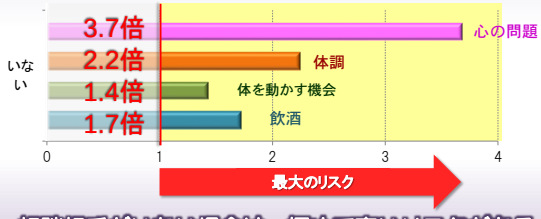


心の問題では人数に比例　一人世帯の飲酒が多い

■ 結果５

相談相手の有無

「相談相手がいる人」を基準（＝1）とした場合のオッズ比

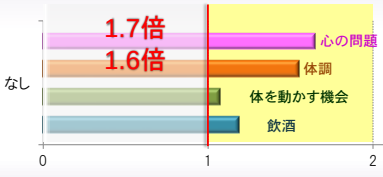


相談相手がいない場合は，極めて高いリスクがある

■ 結果６

社会行事等への参加の有無

「行事に参加している人」を基準（＝1）とした場合

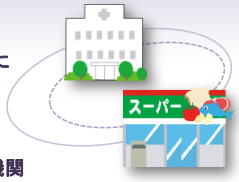


行事へ参加しない人の方がリスクが高い

■ 結果７

生活機能

商店街や病院等が「徒歩5分以内にある」を基準（＝1）とした場合



「徒歩15分以内にある」や「公共機関を使わなくては行けない」や「なし」の団地とのオッズ比はすべてほぼ1に近い結果だった。

仮設住宅の立地条件と健康影響とは有意な関連性は指摘できなかった

■ 結論

- 性別･職業･世帯構成などの個人要因が健康影響に大きく関連。
- 「相談相手の有無」や「行事への参加」などのソーシャルサポートが健康影響（特に心の問題）に大きく影響。
- 仮設住宅の立地条件等と健康影響の間には，有意な差が見られなかった。

立地条件よりソフト面の支援が重要

■ 考察

ソーシャルサポートの拡充

- 人々の交流の機会を増やし被災者の孤立を防ぐ対策が重要
- さまざまな悩みを抱えている被災者に対して適切な窓口につなげる体制が必要

支援対象者

- 今回の分析結果で明らかになった高リスクの方に重点を置いた施策等が効果的